

日本語ニュースレター 2006年12月13日

産業医の新たな活動 — 第2回日本医師会認定産業医研修会の開催にあたり

<http://www.jsrmpm.org/06sub/occupRM2006.html>

酒井亮二 日本予防医学リスクマネジメント学会理事長

日本予防医学リスクマネジメント学会産業医学リスクマネジメント部会では、2007年3月11日に第2回日本医師会認定産業医研修会を東京大学弥生講堂で開催する運びとなりました。

近年の日本は、経済グローバル化、労務の規制緩和、勤務環境の変化などによって就労形態が激変の直中にあり、勤労者の間に新たなる様々な健康リスクが激増しています。女子勤労者の健康度の悪化は育児や児童扶養に甚大な障害を生じており、その一端は学校での不適切な行動の発生にも及んでいます。その理由は、「親は子供の鏡である」ことが永遠の真理であることです。不安定な過重勤労は勤労者の健康を蝕み、自殺やストレスなど巨大な社会不安を引き起こしています。これらの変質する就労に対して、皆さんご存知のように、日本の産業医には新たなる任務が増大しています。

過食・運動不足の勤務はメタボリックシンドロームを増加させ、がん・脳循環器疾患・糖尿病・肝障害などの膨大な数の患者予備軍が年々増加しています。リバウンドの激しいダイエットのみに頼ることは科学的に間違いであり、医療従事者は最先端のスポーツ科学に関する正しい知識が必要になっています。古代ギリシア文明時代から美しい心身は適切な運動・栄養と休養によって成立することが知られていますが、超高齢社会では正しい生涯スポーツの推進が不可欠です。今日では、病気に関する詳しい知識を備えた産業医による生涯スポーツの社会教育こそが健全な社会育成の基盤であり、勤労者の心の世界です。

また、日本は狭い火山大地に多数の人口と都市集中人口を持つために、世界無類の大災害発生国です。救急医学と法医学の長い間の経験から、災害には秒分を競う緊急対応システムの構築が必要です。東京を含む都市でのメガ災害の発生が予測されている今日、地域防災安全システムの全国的な普及が急務です。幸い、日本には全国に有能な産業医が多数おられますので、産業医による産業現場と近隣での迅速な救助互助システムの構築が可能です。これにより、企業防災力と地域防災力が飛躍的に向上します。この産業医の活動は公共財としての企業の新しい社会貢献になっています。

このように、産業医には新たなリスク管理戦略の構築が急務に迫っています。今回の研修会ではこれらの変質する就労に対応する健康リスクマネジメントに関する最新知識・技法が、この分野で日本を代表する諸先生によって紹介されます。すべての講演内容が日本の職業医学分野では最初のもので、まったく斬新です。この研修会の内容は日本の産業界の将来にとって大変貴重な貢献をするモニュメントになる、と確信します。